全国から集う若者とともに、信州から世界の未来を創る

―人と知が交わり、未来へ流れ出す―

信州は、水の源流の地です。

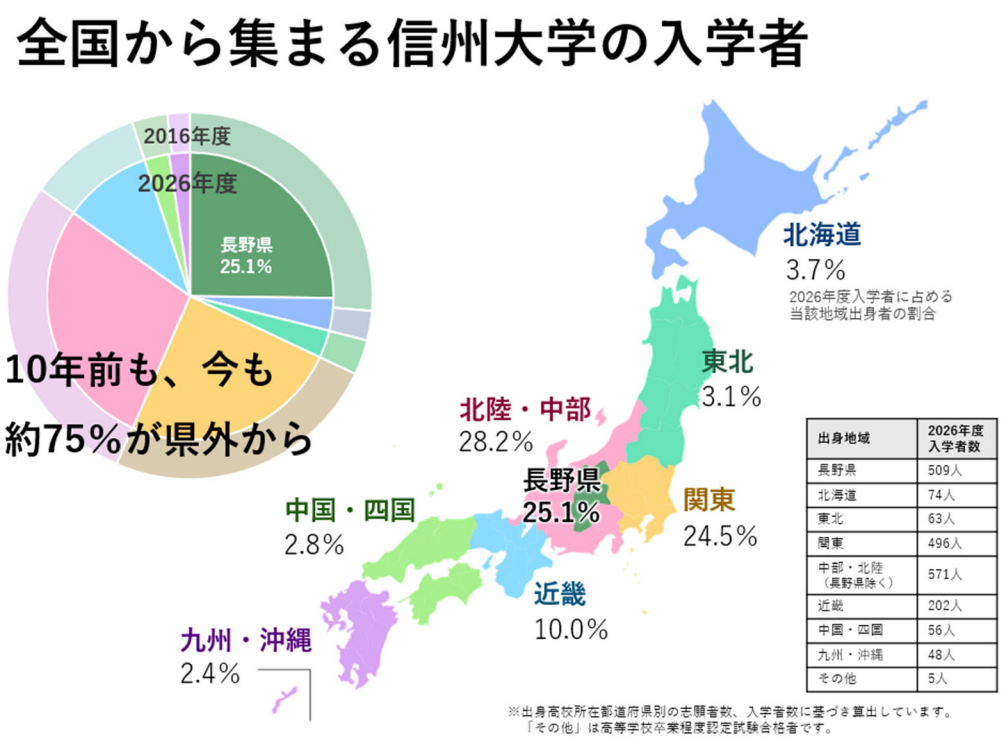
山々に降った水は、川となって地域を潤し、やがて海へ、世界へとつながっていきます。

私は、信州大学に集う若者たちにも、どこかそれに似たものを感じています。

2026 年度、本学が迎えた新入生 2,051 人のうち、約 75%が長野県外等の出身者でした。

全国から異なる経験や価値観を持つ若者が信州に集い、人と出会い、知と交わる。そして、ここで得たものを携えて、それぞれの未来へ歩み出していく。

この人と知の流れこそ、信州大学の大きな力です。



出身地域	2026年度入学者数
長野県	509人
北海道	74人
東北	63人
関東	496人
中部・北陸（長野県除く）	571人
近畿	202人
中国・四国	56人
九州・沖縄	48人
その他	5人

北アルプスを望む松本、善光寺平に広がる長野、繊維の歴史を受け継ぐ上田、農と生命を探究する伊那。それぞれに異なる自然、文化、産業、暮らしを持つ地域にキャンパスを置く信州大学にとって、信州そのものが、未来社会を考え、試し、創るための学びのフィールドです。

そして、世界に挑む研究テーマの一つもまた、「水」です。
アクア・リジェネレーション機構（ARG）を中心に、信州の豊かな山岳と水資源を起点として、水循環、水環境、水素エネルギーなど、地球規模の課題に分野を越えて挑んでいます。世界を見据えながら、地域に根差す。こうした世界水準の研究への挑戦が、山紫水明の地、信州で学ぶ意味をより鮮明にします。

その姿勢は、教育にも息づいています。
これからの社会課題は、一つの専門分野だけでは解決できません。専門を深く学びながら、その境界を越え、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出す。信州大学が育てたいのは、自らも変わりながら、社会にも変化を生み出す「トランスフォーマー」です。
その新しい学びを形にする挑戦が、2027 年 4 月に始まる「サステナブル社会協創学環」です。分野を越えて知を結び、地域や社会の中で多様な人々と共に課題を発見し、その解決に挑む。8 学部を有する総合大学の多様な知をつなぎ、社会と共に未来を創る。学環は、これからの信州大学の学びを象徴するものです。

信州での学びは、その先の未来へとつながっています。

2025 年度学部卒業者 1,895 人のうち、881 人が就職（46.5%）、840 人が大学院等へ進学（44.3%）、99 人が臨床研修医（5.2%）となり、就職希望者に対する就職率は 99.0%に達しました。そして、就職者 881 人のうち 359 人、約 41%が長野県内に就職しました。全国から多くの学生が集い、その一部が、卒業後には信州を自らの活躍の場として選んでいます。

信州に根を張る。全国へ飛び立つ。世界へと羽ばたく。学生一人ひとりに、それぞれの未来があります。信州で育った人と知が、地域、全国、世界を行き交い、それぞれの場所で新しい価値を生み出していく。私は、そんな未来を描いています。

本学が掲げる「VGSU（Vision for Greater Shinshu University）」も、「Extend」「Expand」「Enrich」を軸に、分野、世代、地域を越えて知と知を結び、新たな価値を創造する構想です。

全国から信州へ。

信州で、人と知が出会い、交わる。

そして、そこで生まれた新しい力が、地域へ、全国へ、世界へと広がっていく。

水が大地を巡り、新たな生命を育むように、人と知もまた、循環することで新しい未来を生み出します。

信州大学を、人と知の源流にしたい。

次に、この源流から未来へ向かうのは、皆さんです。